



エコパートナーシップうじたわら

うじたわらの木くん

～茶文化の源 水・緑・生命の環を育む和みのまら～

発行日：2020年8月23日（第81号）

編集・発行：エコパートナーシップうじたわら広報部会

事務局 TEL（88）6639 FAX（88）3231

2020年度総会は書面開催としました

新型コロナウイルス感染防止のため、今年度のエコパートナー総会は例年のように会員や一般の方にお集まりいただく形での開催を見送り、総会資料を会員に送る「書面」での実施といたしました。

総会資料には例年どおりに昨年度の活動報告と決算報告、今年度の活動計画と予算案を掲載し、ご意見等のある場合は事務局へ提出いただくようお願いしていましたが、ご意見等の提出はなかったため、すべての議案を原案どおりご承認いただいたものとしします。

なお、今年度は2年に1度の役員の改選にあたるため、同時に役員の改選案も提案いたしましたので、こちら原案どおりご承認いただいたものとしします。

例年、総会では講師をお招きして環境に関する講演会を開催していますが、今年度はそれにかわるものとして、阪本副会長による特別寄稿「生物資源と民俗誌」—わたくしたちの生活1年12か月の歳時記として—を総会資料に添付しました。

今年度の活動計画について

新型コロナウイルスの感染予防のためには「三つの密」を避ける必要があるとされています。

「緊急事態宣言」も解除され、イベントや交流の制限緩和が行われているものの、感染者が再び増加傾向にあり、安全の確保をはかりながら大勢の人に集まってもらう形での事業の実施が難しい状況に変わりはありません。したがって、例年開催している「エコクッキング」や環境学習の開催は未定です。

当面は会員による調査研究や、会報誌などによる情報発信につとめ、今後の状況をみながら事業の実施計画を検討していきます。

エコパートナーシップうじたわら役員

会長 芦原 昇
副会長 阪本 伊三雄
監事 森田 木一
新任運営委員：村林利高

宇治田原町役場が新庁舎に移転

7月27日、宇治田原町役場が荒木から立川の新庁舎に移転しました。保健センター・子育て支援センターが隣接し、教育委員会事務局や上下水道課も同じ庁舎内にあります。また、エレベーターなどを備えたバリアフリー仕様となっており、様々な方が利用しやすい施設となっています。

新庁舎には太陽光発電パネルも設置されるとともに、効率的な制御システムや断熱性によりエネルギーの使用環境も大幅に変わっています。

町役場の移転に伴い、エコパートナーの事務局も移転しました。

新しい役場庁舎の住所は「大字立川小字坂口18-1」です。



自然に囲まれた役場新庁舎

宇治田原町役場の新庁舎は、かつて山砂利採集が行われた場所が復旧され、新たな事業用地として開発された一角にあります。周辺では今後、企業の事業所が新たに設置され、「新市街地」として開発が促進されることが期待されています。

今後、すぐ南側を通る「宇治田原山手線」が郷之口～南の「南バイパス」と接続され、役場～山手線～国道307号・新名神高速道路とアクセスが格段に向上されます。

東側の保健センター・子育て支援センターの隣には自然公園が設置される予定です。

新庁舎は御林山の南側に位置し、庁舎前の町道南北線から西側の林道を上ると町有林のある御林山に至ります。自然に囲まれた新庁舎周辺では様々な生き物を観察することができるかもしれません。

新庁舎にきのこが群生



今年の梅雨は長期にわたって雨がよく降りましたが、新庁舎敷地の芝生を貼った箇所では、雨の後に小さなきのこがニョキニョキと出ているのが見られました。調べてみると、キコガサタケという名前で、梅雨時などによく芝生や草原に発生します。非常に繊細なきのこで、一晩で成長したと思ったら、1日でおおれてしまいます。特に害はないため、放置しても問題はありません。

今年は長雨で各地の公園や山林で様々なきのこが出ているのが見られますが、それは自然が豊かであるという証拠ともいえます。ただし、名前のわからないきのこや植物をむやみに食べることはやめましょう。

雑感

芦原 昇

温暖化をはじめとした異常気象、熱中症や豪雨、今地球上は一寸先は闇を味わっている。現状にキュウキュウせず、地面に足をつけ悔いのない時間を刻むことが求められているのかもしれない。

さらに今年は未知の新型コロナウイルスへの恐怖が吹き荒れている。

環境問題の根っこは命を守ること。最優先課題は新型コロナウイルスから身を守ることかもしれない。

暑い夏になればウィルスのパワーが落ちるという予想は見事に外れ、感染者は増加の一途。新型コロナウイルスは我が物顔で人間に恐怖を与え、人間社会を分断し続ける。分断といえば、り患しても若者は軽症で高齢者は重篤になりやすいと言われている。高齢者の中でも糖尿病のような基礎疾患を持っている高齢者が特に危険らしい。

危険にさらされていることを意識し、少しでも立ち向かう気持ちで生活を見直すことにした。まずは夜食や間食を減らした。これは自分でできる。運動は暇があれば歩いている。一人で長い距離を歩くのは限界がある。一緒に歩いてくれるサポート役に感謝。

食事も人の助けにうとところが多い。若嫁さんは「せな台風（※事務局注：元気なお孫さんのこと）」が吹き荒れる中、栄養を考えた夕食を提供してくれる。その娘は折に触れじいじにご飯を作ってくれる。この間のおにぎり、愛情がたっぷり詰まっていた。近所の弁当屋さんもうれしい。コロナに打ち勝つスタミナ料理満載で、しかもおいしい。たまに孫が作ってくれる玉ねぎ汁も忘れてはならない。さてさて、先日の検診の結果、血圧も正常に戻り、血糖値も下がっていた。

これで新型コロナに太刀打ちできるかわからないが、行動を起こさないと山は動かない。

お問い合わせ先：エコパートナーシップうじたわら事務局（宇治田原町役場 建設環境課内）

〒610-0289 京都府綴喜郡宇治田原町大字立川小字坂口 18-1

※町役場の移転に伴い事務局の住所も変わりました

TEL 0774-88-6639 FAX 0774-88-3231 Eメール：junkan@town.ujitawara.lg.jp

会報のバックナンバーをご覧ください

宇治田原町役場ホームページ「トップ」⇒「環境衛生」⇒「エコパートナーシップうじたわら」

エコパートナーシップうじたわら facebook ページ公開中



茶文化の源 水・緑・生命の環を育む和みのまち 宇治田原